

## 2 平成28年度茨城県幼児教育推進校の取組

- (1) 常総市立豊田幼稚園の実践
- (2) 鹿嶋市立平井認定こども園の実践



絵：「さつまいもほり」常総市立豊田幼稚園 やまぐち たかあき さん（5歳）

### 研究主題

## 豊かな体験で豊かな心を育てる環境構成の在り方

ー地域の身近な人々や自然とのふれあい体験を通してー

### 1 主題設定の理由

変動の激しい現代社会において、社会に柔軟に対応できる力として、子供たちの自主性・自立性の育成が求められている。特に、幼児期の教育は「生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な役割を担っており、幼児一人一人のもつ様々な可能性は、日々の生活の中で出会う環境によって開かれ、環境との相互作用を通して具現化されている」としている。また「幼児は、環境とかかわり、体験を深め」たり、「体験の重なりが幾筋も生まれ、幼児の将来へ」（幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開 文部科学省）とつながったりしていくものである。

本園は、3年保育3クラス34人の小規模園であり、すぐ東に小貝川が流れ、土手や田畑に囲まれた自然豊かな田園地帯である。また、豊田小学校と隣接しており、交流活動が実施しやすい環境にあることから、これらの地域の環境を生かし、地域の人々とかかわりや、散歩を通して、全身で自然を感じ取る活動に取り組んでいる。

また、少子化の影響により、子供たちが集団で遊ぶことが少なく、家庭内では一人遊びやテレビをみたり、ゲームをしたりして遊ぶことが多く、人や自然と関わる生活体験が不足している。

これらの実態から、子供たちが実感を伴った多くの気づきを得るためには、人や自然と関わる多様な体験活動の場を設定する必要があると考える。多様な体験から多様な気づきを促し、子供自身の気づきが、他者や外界への気づきとなって、自ら身近な人々や自然を大切にすることができる子供たちの育成を目指し、本題を設定した。

### 2 研究のねらい

自然豊かな環境や、地域の身近な人々とかかわりを通して、豊かな心を育てるための環境構成や援助の在り方を探る。

### 3 研究の内容

#### (1) 研究の仮説

幼児を取り巻く生活環境や生活体験を踏まえ、身近な自然環境や地域の人々との体験活動を豊かにすることで人や自然を大切に、自分を大切に育つ豊かな心が育つであろう。

#### (2) 具体的な手立て

##### ① 環境構成

- ・身近な地域の人材を活用する。
- ・地域の施設への訪問機会を設ける。
- ・身近な自然環境を活用する。（散歩等）
- ・隣接する豊田小学校との連携を図る。

##### ② 支援

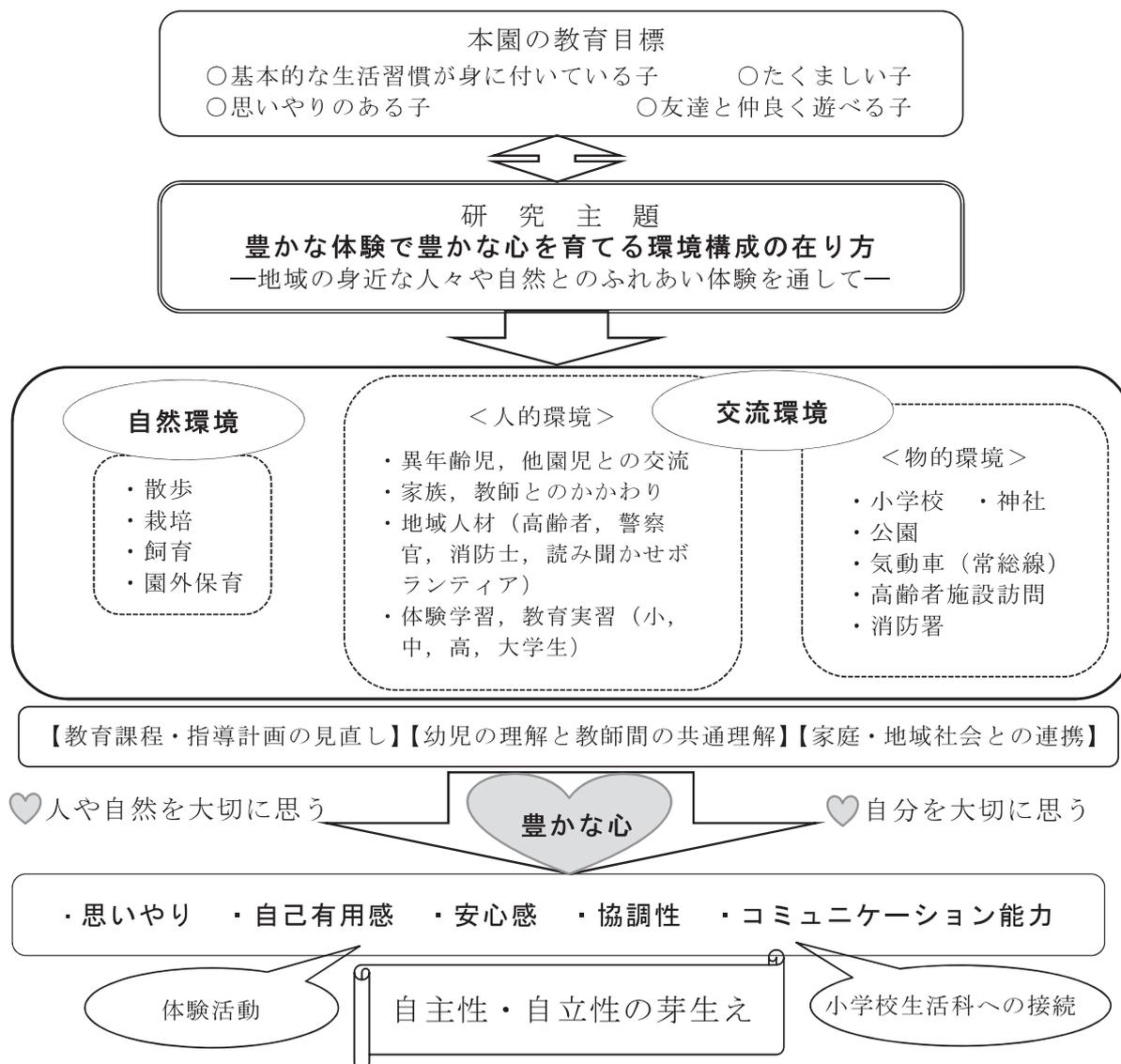
- ・一人一人の生活体験の違いを把握することで効果的な支援につなげる。
- ・体験活動を通して、幼児が互いに認め合うことで、安心感や自己有用感を持たせる。
- ・交流活動を通して、人と触れ合う心地よさを感じさせ、コミュニケーション能力を育む。
- ・幼児の思いやイメージを生かすことで、興味・関心・意欲を膨らませ、自発的な活動を促し自主性・自立性の芽生えを養う。
- ・常に教師が幼児の心に寄り添い、幼児一人一人のよさを認める。

(3) 研究の方法

- ① 全職員で研究主題や研究の進め方について共通理解を図る。
- ② 幼児の生活体験の実態を把握する。
- ③ 体験活動の在り方を検討する。
- ④ 実態に即した指導計画を作成する。
- ⑤ 環境構成の工夫や支援の在り方を検討するための園内研修を行う。
  - 研修日 ・毎週月曜日
  - メンバー ・全職員（園長，主任，クラス担任，計5名）
  - 研修内容 ・アットホームな雰囲気の中で保育の悩み，課題を出し合う。
    - ・ビデオ，写真での記録を取り，可視化（見える化）し子供たちの姿を振り返ることで子供たちの育ちや成長の評価，指導の改善点を探っていく。
    - ・他園（市内5園）の保育を参観。（1人1園以上，要請訪問の時に参観し，課題や実践内容を持ち帰り，研修で共有化する。）
    - ・要請，計画訪問にて指導主事を含めた協議を行う。
- ⑥ 実践の記録をもとに成果と課題を確認し，評価・検討をする。



(4) 研究の全体構想



体験活動計画

○自然 ☆幼小連携 ◇地域の交流

	異年齢	3歳児	4歳児	5歳児
4月 春	<ul style="list-style-type: none"> <li>○散歩</li> <li>・阿部神社のお参り</li> <li>・恐竜公園 (オタマジャクシ採り)</li> <li>○小動物の飼育</li> <li>◇消防署見学</li> <li>○近隣幼稚園へ</li> <li>◇お話の日 (ボランティア訪問)</li> <li>○夏野菜の苗、種を蒔く</li> <li>・サツマイモ苗植え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4, 5歳児とペアを決め一緒に行動する (初めての散歩)</li> </ul>  <p>オタマジャクシ採り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ラディッシュ栽培</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児とペアになり一緒に行動をする</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇高齢者施設訪問 (ラポール)</li> <li>○ミニキャロット, 落花生の種を蒔く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児とペアになり一緒に行動をする</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小貝川土手散歩</li> <li>・おさんぽマップ作成 (菜の花, よもぎ摘み)</li> <li>◇よもぎ団子作り</li> <li>◇高齢者施設訪問</li> <li>○ミニトマト, ピーマン苗植え, 収穫</li> </ul>
6月 夏	<ul style="list-style-type: none"> <li>○雨の日の散歩</li> <li>○土手散策 (虫探し)</li> <li>○自然物で遊ぶ (シロツメクサ, タンポポ, オオバコ, クローバー)</li> <li>○園外保育 (坂東児童公園)</li> <li>○ジャガイモ掘り</li> <li>○夏野菜の収穫</li> <li>○ザリガニ取り</li> <li>○色水遊び (アサガオ)</li> <li>◇サッカー教室 (アントラーズ)</li> </ul>	 <p>雨の日の散歩</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ミニひまわり栽培</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○草木染体験</li> </ul>  <p>玉ねぎの皮等を使った草木染体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ミニキャロット収穫</li> <li>○祖母参観プレゼント (収穫した花, 葉を使って押し花)</li> <li>◇高齢者施設訪問</li> </ul>	 <p>お散歩マップ(5歳児作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○草木染 (タマネギの皮など)</li> <li>☆小学校訪問 (収穫したジャガイモを1年生にプレゼント)</li> <li>◇高齢者施設訪問</li> </ul>
10月 秋	<ul style="list-style-type: none"> <li>○散歩</li> <li>・土手 (芝滑り, 虫探し)</li> <li>・あたごの森 (どんぐり, まつぼっくり拾い)</li> <li>○お宮参り</li> <li>○自然物で遊ぶ</li> <li>○園外保育 (松見公園)</li> <li>○サツマイモ収穫</li> <li>☆防災訓練 (幼小連携)</li> <li>☆小学校訪問 (運動会予行練習)</li> <li>◇お話の日 (ボランティア訪問)</li> <li>◇サッカー教室 (アントラーズ)</li> <li>☆あきまつり (小学校から招待)</li> <li>◇高齢者の集い</li> </ul>	 <p>芝滑り</p>  <p>小学校のあきまつり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○サツマイモのつるでリース作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇高齢者施設訪問</li> </ul>  <p>高齢者とのふれあい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○みかん狩り (筑波山)</li> <li>○自然物で高齢者へのプレゼント作り</li> <li>○サツマイモのつるでリース作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇高齢者施設訪問</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆小学校の予行練習参加 (宝拾い)</li> <li>○気動車の旅 (自然物拾い)</li> <li>○みかん狩り (筑波山)</li> <li>○チューリップ球根植え</li> <li>○自然物でラポールのプレゼント作り</li> <li>○サツマイモのつるでリース作り</li> </ul>
1月 冬	<ul style="list-style-type: none"> <li>○散歩</li> <li>・土手 (ソリ滑り)</li> <li>○氷作り, 霜, 雪遊び</li> <li>◇お話の日 (ボランティア訪問)</li> <li>◇サッカー教室</li> <li>○お別れ遠足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇高齢者施設訪問</li> </ul>  <p>お話の日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇高齢者施設訪問</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自然物でラポールのプレゼント作り</li> <li>○ジャガイモの苗植え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇高齢者施設訪問</li> <li>○自然物でラポールのプレゼント作り</li> <li>○ジャガイモの苗植え</li> </ul>

## 4 実践事例

### 事例1

## 「よもぎのはっぱで団子をつくろう」 ～園を取り巻く身近な自然に触れて～

3年保育 5歳児

#### (1) 園児の実態

- ・ 5歳児に進級した喜びを感じ、張り切って生活している。
- ・ 園庭のクローバー、シロツメクサ、タンポポ、オオバコなどの春の草花を使って草花遊びを楽しんでいる。
- ・ 年下の園児の手本となりながら、当番活動や遊びを率先して行おうとしている。
- ・ 4歳児の時に育てていたチューリップの開花など、植物の生長を喜んだり、引き継いだ植物に興味をもち、世話をしたりする姿が見られる。

#### (2) ねらい

- ・ 人間関係(2)－(13)      ・ 環境(1)－(4)      ・ 健康(3)－(5)
- ・ 春の自然に興味や関心をもってかかわる。

※ビデオ撮影による記録

幼児の姿，教師や幼児の発言	教師のかかわりと援助
<p>1 帰りのお集まりの活動時に、絵本「よもぎだんご」(ばばあちゃんシリーズ)を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 途中、挿絵を見て A児「さくらの木があるよ。」 教師「そうだね。幼稚園にもさくらが咲いているからちょうど今の季節だね。幼稚園の近くにも生えているかな？」 B児「うちのおばあちゃんが犬の散歩をしているときに見つけたよ。ぼくも知っているよ。」 教師「どこで見つけたの？」 B児「土手だよ！」 教師「土手だったら歩いて行けるね。みんなで探しに行ってみようか。」 C児「よく分からないから、図鑑を持っていったほうがいいよ。」 教師「そうだね。みんなの図鑑で調べてみるのもいいね。でもこの後、ばばあちゃんがよもぎはどんな葉っぱか教えてくれるかもしれないから続きを読んでみるよ。」</li> <li>・ 読み終えて 教師「よもぎ団子作りおもしろそうだったね。」 A児「ぼくもこねこねしたい！」 D児「わたしもいろいろな形をつくりたい。」 C児「包丁はこわいよ。」 E児「よもぎ団子作ろうよ。」 教師「先生も作ってみたいな。でも先生は作った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラスのみんなで歌ったり絵本を見たりして、安心して過ごせるような雰囲気づくりをしていく。</li> <li>・ 気付いたことや感じたことを自由に表現できるように、子供の気付きに共感しながら読み進める。</li> </ul> <div data-bbox="943 1223 1347 1570" style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">絵本「よもぎだんご」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵本の世界へ入り込んで、共感したり、気付いたり、感じ取ったりできるように読み聞かせを進めていく。</li> <li>・ 教師からの投げかけや話題提供を十分に行い、興味・関心を引き出していく。</li> <li>・ 絵本の内容に思いをめぐらせ、幼児達が自分の思いを伝え合うことができるようにしていく。</li> </ul>

ことがないからできるかな。」

B児「ぼくのおばあちゃんは、よもぎ団子を作ったことがあるから、手伝ってもらったらいいよ。」

教師「そうなんだね。じゃあ、おばあちゃんにお手伝いをお願いしてくれるかな？」

B児「いいよ！聞いてくるから。」

教師「みんなで、よもぎ団子作りができるといいね。」

- ・幼児の興味・関心から提案された活動を実現できるよう期待をもたせる。
- ・よもぎや興味を持った草花をすぐ調べられるように図鑑を用意しておく。

## 2 よもぎを摘みに行く

- ・よもぎ団子作りに詳しいB児の祖母が同行し、近くの土手までよもぎを摘みに行く。
- ・よもぎの特徴（葉の裏が白くケバだっている。葉先がとがっていること）を手がかりにしながら探し始める。
- ・摘みはじめはよもぎで合っているのか不安で摘むことに「これでいいの？」と聞きに行く。
- ・よもぎ探しに慣れてくると誰がたくさん摘めるか競争が始まる。

F児「ぼくのほうがこんなにとれたよ！」

G児「手にいっぱいになったらカゴに入れてね。」

C児「なんだか菊のにおいがするね」

教師「よく気が付いたね。よもぎは菊の仲間なんだって。」

C児「え～！そうなんだあ。」

- ・園に戻り、重曹を使ってアク抜きをする。ゆでたよもぎを見て

B児「小さくなっちゃったね。」

C児「あっ！よもぎ団子のにおいになった。」

A児「早くお団子作りしたいな～」

## 3 よもぎ団子を作る。

- ・B児祖母の指導により、よもぎ団子作りを始める。
- ・上新粉にお湯を入れてこねるところを見守る。

C児「いい匂いがする。」

F児「おひな様の時、食べるやつみたい。」
- ・まとまって形になってきたら

D児「私もこねるのが大好き。」

F児「ぼく、力こぶあるよ。」
- ・触ってみて

E児「あったかい。」

A児「プニプニしている。」
- ・蒸かしたもちとよもぎをすり鉢に入れてすりこぎ棒で混ぜながらつく。
- ・最初につきたくて順番取りになる。

- ・散歩（小貝川の土手）によもぎ摘みという目的をもたせて、意欲を高める。
- ・よもぎの特徴について確認し合いよもぎの見分けが自分なりにつくように知らせていく。



よもぎ摘み

- ・摘んだよもぎをよく見て、葉の形や匂いなどの特徴に気付いたり、友達に伝えたりして、情報を共有できるようにする。

- ・よもぎ団子作りを通して、食材そのものや調理の過程に関心をもてるようにしていく。
- ・香りや触感、色の変化に気づき、味を想像させるなど五感を豊かにはたらかせるよう指示、援助をする。



よもぎ団子作り

教師「みんな一度にはできないからどうしようか？」

F児「ジャンケンで決めたらいいよ。」

教師「そうだね。」

- ・順番に並んでもちをついていく。

B児「おもちが緑色になってきた。」

C児「よもぎ団子だ。」

D児「おいしそう〜。」

- ・出来上がったもちを一口の大きさに丸めてよもぎ団子にする。

B児「うめさんとともさんにも作ってあげようね。」

A児「小さいお口だから小さいお団子にしよう。」

F児「手にもちがついちやうよ。」

A児「ハートの形にならないな。」

D児「食べた〜い！」

- ・食べてみて

B児「よもぎの匂いがする。」

D児「きなこをつけるともっとおいしいね。」

F児「いっぱい食べられる。」

#### ◎振り返り

E児「土手によもぎを摘みに行って楽しかった。」

C児「もちつきが疲れた。」

B児「おばあちゃんと一緒に作れて嬉しかった。」

F児「初めて食べたけど、2個も食べられたよ。」

・蒸かしている間はこれまでの工程をホワイトボードに書き、一緒に確認していく。

・トラブルを解決するきっかけを与え、日常生活に生かせるように解決策を自分たちで決めさせる。



祖母の指導のもとに



団子の形になった

・季節感や日本の食文化にふれた経験を、香りや味を記憶させ食育の大切さを知らせる。

・料理が食卓に並ぶまでの過程を知り、手作りの大変さやおもしろさを知らせる。

・自分たちが作った物を年下の子が食べる姿を見たり聞いたりして、喜びが実感できるようにする。

### (3) 成果

- ・よもぎを知っている園児が少なく、「草＝食べられない」というカテゴリから認識が変わり、食育にもつながった。
- ・よもぎ団子作りの後、夏野菜を育てる話し合いでは「ピーマンを育てたい。」「ミニトマトを育てたい。」「嫌いなものも頑張って食べられるよ。」「ピーマンでお料理がしたい。」「ぼくもよもぎ団子食べられたから。」との声が聞かれた。そうした話し合いを受けてピーマン、ミニトマトを育てることになり、次の展開につながった。
- ・地域のおばあちゃんに教えて頂きながら、みんなで協力してお団子作りを体験し、達成感が得られた。また「小さい子にも作ってあげよう。」「小さいお団子にしよう。」などたくさんの気付きが見受けられた。
- ・今回の「よもぎ団子作り」は、子供たちの「やりたい」という思いを生かし、先生方や地域の方の協力を得て、実現することができた。

## 事例2

### 「高齢者施設 ラポール訪問」

～おじいちゃん、おばあちゃんとの触れ合いを通して～ 3年保育 4, 5歳児

#### (1) 園児の実態

- ・高齢者施設訪問は5歳児のみ、年間6回実施しているが、今年度は5歳児が7名で少人数のため、4歳児11名も一緒に参加することになった。
- ・10名がバス通園のため、バスの中から見える高齢者施設に期待をもち「ここだ～」と指を差し、「行ってみたい」と話している。
- ・初日は緊張の顔がほぐれぬまま終わったように見えたが、バスの中で「ドキドキしたー。」「また行きたい。」との声が聞かれた。

#### (2) ねらい

- ・人間関係(2)－(8)(13) ・表現(2)－(7) ・言葉(1)－(2)(10)
- ・高齢者とプレゼントやゲーム等で楽しく交流することを通して、高齢者に親しみをもち、人とかかわる喜びを味わわせる。

#### (3) 援助の方向性

- ・手が不自由な人、寝たきりの人、よく話す人、無口な人など、様々な人がいることを事前に知らせ、相手にあわせた対応がある事が分かるように、その場をよく見守り、必要に応じて声をかけていく。
- ・子供だけではなく、教師も一緒に触れ合うことで子供たちも安心して参加できるようにする。
- ・話し合う機会を設けることで、訪問を楽しみに待てるように高齢者の方とどんな遊びをしたいかを一緒に考え、どんなプレゼントを作ったら喜んでもらえるか等、期待感を膨らませ、活動への自主性を高める。

#### (4) 全体の活動とそれまでの流れ

##### ① おじいちゃん、おばあちゃんへのプレゼント作り（自然物を使って製作）

6月	<p>・園で見つけた四つ葉のクローバーでしおりを作る。</p>   <p>よるこんでくれるかな？</p> <p>しおりの裏には「げんきでね」とメッセージ</p>
7月	<p>・カレーを作った時のタマネギの皮を使ってタマネギ染めに挑戦！</p>   <p>色が変わったー スゴイ！</p> <p>コースターできたよ！</p>

## ② 高齢者施設訪問

### あいさつ、歌（海など）



こんにちは！

ちょっとドキドキするな・・・

### 肩たたき



顔をチラッと見ながら“トントン”

「海」の歌は高齢者の方も歌いました。

### ふれあい遊び

おじいちゃんに  
かったよ！



げんこつ山のためきさん

手をまるく  
するんだよ



ずいずいずっころばし

### プレゼント交換



また来るね！

なにが入っているんだろう？  
たのしみー！

プレゼント交換



タッチしてさようなら！

## (5) 成果

- ・年度初め、第1回目（5歳児2回目・4歳児初めて）の訪問の時は、緊張から表情が強ばっていたが、ふれあい遊びを通してかかわりを深めることによって緊張がほぐれてきた。
- ・毎月の歌の発表やふれあい遊びに使用する曲は、わらべうたや昔から歌い継がれている歌だと高齢者の方も一緒に歌ってくれたりして、一体感が出た。
- ・子どもだけではなく、教師も一緒にふれあうとその姿を見て子供たちも安心してかかわれた。
- ・活動の様子を撮った映像を、子供たちが観る機会をもった。おじいちゃん、おばあちゃんの表情を見て、楽しそうに振り返る姿があった。

## (6) 課題

- ・プレゼントを渡すだけでなく、一緒に製作する活動も検討していきたい。
- ・施設にて高齢者が座る位置によって触れ合うことが難しいため、施設側と連携を取っていきたい。
- ・子供から自然と高齢者に優しくできたり、声をかけたりできるよう、継続的なかかわりをしていきたい。

### 事例3

## 「チャレンジ島で楽しく遊ぼう！」

～豊かな環境を生かした園庭でのアスレチック遊び～ 3年保育 異年齢活動

#### (1) 園児の実態

- ・よもぎ摘みからのよもぎ団子作り・おたまじゃくし採り・梅雨の時期の戸外散策など、季節を感じた戸外での遊びに伸び伸びと参加している。
- ・雨の露がかかったクモの巣を見つけて喜び合ったり、園庭の砂場にある藤の種をジャンプして取る遊びを始めたりして、子供たち自身が戸外での遊びに対して積極的にかかわる姿がよく見られる。坂東市児童公園への園外保育では、ターザンロープやローラー滑り台を喜んで遊ぶ姿が見られ、「またやりたい」「もっとやりたい」との声が多く聞かれた。
- ・園周辺の散策の際に異年齢のペアで行動することで、道路を歩く時や危険のある場所で年上の子が小さい子を気遣う姿も見られるようになってきた。

#### (2) ねらい

- ・人間関係(1)(2)－(4)(7)(10)(12) ・健康(2)－(2)(3)(4)
- ・異年齢児とかかわって、一緒に楽しんだり優しくリードしてあげたりして充実感を味わいながら遊びに取り組む。
- ・自然とかかわりながら、体を十分に動かして遊ぶ。

#### (3) 援助の方向性

- ・教師間の連携を密にし、異年齢児がかかわって遊びを楽しんだり、けがのないように安全面に配慮したりしながら活動を進めていく。(全年齢)
- ・異年齢児と一緒に遊ぶ中で、ペアの幼児が木登りしたり、芝滑りしたりしているところを見て、自分もやってみたいという気持ちになれるようにする。(3歳児)
- ・どの遊びをするか迷っていたり、動き出せなかったりするペアには、気持ちに寄り添いながら声をかけていく。遊びのきっかけを作ったり、一緒に動くことで楽しさを伝えたりしていく。(4歳児)
- ・異年齢児のペースに合わせて遊びを進めたり、教えたりしようとしている姿を見守り、場面に応じて援助していく。(5歳児)
- ・友達の刺激を受けながら、それぞれの遊びを進めていけるように、一人一人の頑張っていることを伝えたり、見せ合ったりしていく。(5歳児)
- ・楽しかった遊びや異年齢児とのかかわりを振り返り、自信を持って今後のさまざまな遊びに生かしていけるようにする。(全年齢)

みんなおそろいの  
タマネギ染めの  
バンダナだよ♪



(4) 全体の活動とそれまでの流れ



(5) 成果

全体を通して子供たちの姿を見守っていたこと、指導の改善に生かしていくためにビデオや写真での撮影をしていたことで、子供たちと一緒に活動している教師も含めての姿を客観的に「過程（プロセス）」として見る事ができた。

今回の事例では、幼稚園教育要領の領域『人間関係』に視点を置き園児の変容を省みる。

① 人間関係 内容12項目に添った成果

(ア) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう→カレーの日に子供たちがむいたタマネギの皮を使った「タマネギ染め」のバンダナをみんなでつけたことによる一体感を感じられた。

(イ) 自分で考え、自分で行動する→5歳児全員が協力してテーブルを片付けようとしているときに一

人いないことに気付いた。いなかった子は遊んでいたわけではなく、自主的に使用した絵の具の桶を水道で洗っていた。

- (ウ) 自分でできることは自分です→「カンガルーになろう」では、それぞれ違う高さの3つのボールを自分の力で頑張ってジャンプしてタッチをしていた。
- (エ) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ→「サルになろう」では、木登りに挑戦していた。
- (オ) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う→活動後の振り返りで「どうだった？」と相手の思いを確認する時間をとっていた。
- (カ) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く→藤の種を取るときに、「あれをとって。」と伝える。
- (キ) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう→活動中に転んでしまったペアの3歳児の手の砂を、4歳児が払ってあげた。
- (ク) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする→大きなテーブルをみんなで持ち上げ、扉のところで「向きを変えよう。」と言って縦に持ち替えて運び入れようと、自分たちで考えて片付けをしようとする。
- (ケ) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する→集まって話を聞く時に、座って砂を触っていたり後ろを向いたりするペアの3歳児に「並ばなきゃダメ！」と制止する。
- (コ) 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ→活動中に風が吹いたとき、ペアの3歳児が「寒い」と言うのを聞き、4歳児がおでこをさわって熱の確認をする。
- (カ) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする→ハム太郎の音楽が鳴ると集まりの合図であることが習慣づいており、活動のはじめとおわりには必ず挨拶をしてお辞儀をする。
- (シ) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う→片付けを協力して行う姿を教師が見とる。

## ② 個別対応の成果

- 3歳児A児…入園当初より不安げな表情を見せていたが、この日は笑顔で伸び伸びと活動している姿があった。ペアの4歳児が優しくリードして一緒に動いてくれたことに加えて、バンダナを付けたことによる一体感が大きなきっかけになったと考えられる。
- 4歳児B児…普段からマイペースな性格で、年下の幼児にあまり関心がなく、自分のやりたいことを黙々と行う様子が見られており、その都度教師の働きかけでペアの3歳児を意識させるようにしてきたが、ビデオの記録から、ペアの3歳児を「ペンギンになろう」の築山すべりで、先にすべるよう手を引いて促している姿がみられた。
- 5歳児C児…3歳児・4歳児との3人組で活動しており、自分が遊ぶ余裕もなく方々へ行ってしまいう2人を追うことで精いっぱいのように見えたが、活動後に部屋で感想を聞いたところ「2人がすごく楽しそうに遊んでいるのを見てうれしくなった。」と答えたことから、見取りとしての評価と子どもの思い（自己評価）の両面から成果と課題を探ることの必要性に気付いた。（後日、5歳児だけで思い思いにチャレンジ島で遊ぶ時間を設けた）

③ 自主性・自立性の芽生えが見られた場面



自分たちで考え、行動する

どうすればお部屋に入れられるかな？

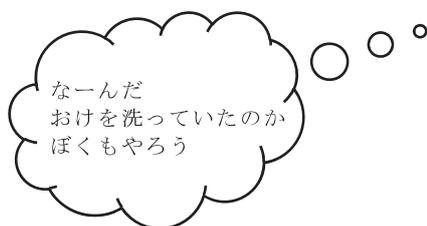
一人足りないよ。どうすればよい？



えっ？お熱ない？大丈夫？

さむーい！

3歳児を心配する4歳児



なーんだ  
おけを洗っていたのか  
ぼくもやろう



進んで片付けをする

みんなはテーブルのお片づけ・・・  
じゃあ、私はおけを洗おう。

(6) 課題

- ・危険がないよう見守るために各コーナーに職員を配置していたことで、活動を流れとしてみるのが難しかった。
- ・異年齢を意識した遊びでは、年上の幼児が伸び伸びと遊び込むことが困難な状況もある。(後日に遊び込む時間を設ける。)
- ・子供たちが思い思いに行き来する中、コーナーによっては、一時閑散とする場もあったが、教師による呼び込みは必要であるかどうか、支援に違いがあった。(混雑していても今そこをやりたい、という子供たちの思いと、空いている所からやったほうがたくさん遊べるだろうという大人の思い)



## 事例4

### 幼稚園、小学校一斉防災訓練

～地域の人たちと防災訓練を通して命の大切さ知る～ 3年保育 全園児

#### (1) 園の実態

- 平成27年9月関東・東北豪雨で鬼怒川が氾濫し、甚大な被害を受けた。常総市の幼稚園2園が大きな被害を受け、被害後から2月まで豊田幼稚園で3園合同保育が始まった。  
常総市では、9月1日「防災の日」水害を想定した小中学校で一斉に防災訓練を行うことになった。小学校と隣接しているので、幼小連携して防災訓練を実施することになった。

#### (2) 園児の実態

- 昨年9月に水害の影響を受けたことから、雨が降ったり続いたりすると、幼稚園の近くを流れる小貝川があふれるのではないかと心配をする園児もいる。
- 『お・か・し・も』『い・か・の・お・す・し』の言葉を口にしたり、部屋の掲示を眺めたりして、日常的に訓練のイメージを思い返す姿がみられる。

#### (3) ねらい

- 人間関係(3)－(3)(10)(11) ・環境(2)－(10)
- 緊急時（小貝川氾濫警戒）を想定し、隣接する小学校や地域の人々と連携し、災害時の対応を体験することで、自分と人とのかかわりや、自然の恐ろしさに気付かせる。
- 日常生活に関係の深い緊急情報や避難のための施設などに関心を持つことで、安全な生活への意識を促す。

#### (4) 援助の方向性

##### ① 事前

- 安全確保や避難の大切さを事前に意識させるために紙芝居や教師の話をするための機会を設ける。
- 教師の指示やきまりを守って行動することの大切さを伝え、『お・か・し・も』の約束とともに命の大切さを知らせていく。

##### ② 事後

- 活動内容を振り返らせて、関わった人や施設についての子供の気付きを印象づけ周囲の環境に関心を持たせる。

#### (5) 全体の活動とそれまでの流れ

##### 1 事前打ち合わせ（7月11日）

###### 確認事項

- ・日程
- ・避難経路確認
- ・園児名簿提出
- ・幼児の把握  
(援助を要する幼児)
- ・持ち物



豊田小の教頭、教務主任が来園し、園長、主任と打合せの様子

##### 2 園児、小学生打ち合わせ

###### 顔合わせ

小学生がどの園児と手をつなぐか確認し、避難経路を誘導する。



顔合わせ



小学生が、優しく手をつなぎ、園児の歩調に合わせて歩く様子

### 3 園児の姿

- ・小学生との顔合わせで、不安を感じた園児もいたため、その後「小学生のお兄さんやお姉さんはみんなを助けに来てくれるんだよ。」と話したところ、数名の園児が「助けに来てくれるんだよね。」と言って、笑顔も見られた。(3歳児)
- ・小学校3階の図書室まで階段を登ったことから「いっぱい上に登った。」「高い所まで上がったね。」と話す姿が見られ、小学校が大きいことに驚く様子もあった。「こんなに高かったら水がこないね。」と気が付き、つぶやく園児もいた。(4歳児)
- ・顔合わせ、訓練練習後に園へ戻ると『お・か・し・も』の約束は守れていたか、自分のペアになってくれる小学生はどうだったかを子供たちで確認したり伝え合ったりしていた。
- ・引き渡し訓練前に避難の仕方について確認する中で、「避難訓練は本当じゃないんだよ。でも、ちゃんとやらないと本当に水害になった時に困るからね。」と話す園児もあり、避難訓練をすることで身の安全の守り方や災害について意識が高まっている様子が見られた。(5歳児)

### 4 一斉防災訓練 (9月1日)

☆園児 ○小学生

園児の動き	教師の配慮	活動の様子
<p>☆園庭に集合する。 ☆『お・か・し・も』の約束を意識しながら集合する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に『お・か・し・も』が分かるようにポスターを掲示しておく。</li> <li>・ドアを閉め、避難袋を持ち園児を誘導する。</li> <li>・逃げ遅れた子がいないか確認する。</li> <li>・小学校から連絡が入る。</li> </ul>	 <p style="text-align: center;">園庭に集合</p>
<p>○小学生4, 5, 6年生が迎えに来る。 ○担当園児の所に並ぶ。 (園児1人に小学生2人がついて荷物持ちと誘導。)</p> <p>☆避難を開始する。 ☆手をつなぎ小学校へ向かう。 ☆小学校の昇降口で上履きに履き替える。 ☆3階まで階段を上り図書室へ。 ☆図書室に着き、椅子に座る。</p> <p>☆引き渡し訓練を開始する。 ☆名前を呼ばれたら、荷物を持ち、担任のところへ行く。 ☆保護者とともに降園する。 ☆引き渡し訓練が完了する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に一斉メールを配信する。</li> <li>・欠席者がいる場合は、小学校の教師に伝える。</li> <li>・不安な園児には、近くで声をかけながら安心して訓練に参加できるようにする。</li> <li>・小学校の教師が先導。</li> <li>・幼稚園職員はクラス最後尾につく。</li> <li>・廊下、階段の移動に十分注意する。</li> <li>・人数確認を行い園長、小学校の教務主任へ報告する。</li> <li>・担任は、引き渡しカードを受け取り、時間を記入し名簿にチェックする。</li> </ul>	 <p style="text-align: center;">小学生が園児を誘導</p>  <p style="text-align: center;">図書室へ避難</p>

(6) 成果

- 水害時に、避難する時には豊田小の児童が来てくれることを知らせると、嬉しい表情をして安心感を得ることができた。
- 自然（川）はいつも楽しい遊び場だが、こわいこともあるという自然の偉大さへの気づきを促すことができた。
- 「幼稚園にいる時には小学校の3階に逃げられるけど、家にいる時はどうしよう」という声が聞かれ、災害が起きた時のイメージをもち、家にいる家族も心配し、自分ひとりだけではなく、身の回りの人々の安全を考えるきっかけにもなった。
- 困っている時に小学生や地域の消防団等、いろいろな人に助けってもらったことを知らせ、命の大切さを考えることができた。

(7) 課題

- 事前の練習や顔合わせはあったものの、ペアになる小学生とのかかわりや、触れ合いなど（話をしたり、聞いたり）が少なく、何度か時間をかけて交流を深めてから実践できると更に意義深いものになった。
- 小学校とのより多くの連携を図り、年間を通して幼小連携の活動を実施していきたい。



## 5 研究の成果と今後の課題

### (1) 成果

#### ① 子供への支援の在り方

- ・ 幼児理解を深めるために、一人一人の遊び方や他児とのかかわり方を見取り、日々記録をすることによって、興味・関心を知り、適切な支援をすることができた。
- ・ 子供たちと共に教師が園内外の自然環境に意図的、意識的に関心をもつようになり、教材・教具の工夫や開発への意欲が高まった。
- ・ 高齢者通所施設訪問を重ねるごとに、子供たちから「〇〇を一緒にやりたい」等、積極的に交流を深めようとする気持ちが芽生えてきた。(事例2)

#### ② 子供の姿

- ・ 家庭では体験できない多様な体験活動を通して、人とかかわる事の喜びや充実感を味わうことで、温かな言葉のやり取りや人との接し方が身についてきた。
- ・ 高齢者や年下の子へのいたわりの言葉や態度がどの園児にもみられるようになった。
- ・ 係や分担以外の活動に自主的にチャレンジしたり、手助けしたりする態度が育っている。
- ・ 園周辺の散歩を多くしたことで、身近な生き物に関心をもち、自分達で飼育する喜びを感じることができた。自然体験を通して季節の植物にも興味を示し、自然物を利用した創作や活用に意欲的に取り組むことができるようになった。

### (2) 今後の課題

#### ① 子供への支援の在り方

- ・ 異年齢児活動において、教師の配置や役割分担、見取りや評価の効果的な方法や在り方。
- ・ 5歳児の異年齢児活動における活動内容や活動時間の設定。(年下の子の面倒をみることによって十分に遊び込めない様子が見られる)
- ・ 体験活動によって気付いた事象や思いを、体験に伴う気持ちと「言葉」及び「表現」と結びつける活動の位置づけ方。
- ・ 子供への支援(体験活動)についての理解、協力を十分に得るための、保護者に対する周知、連絡方法。

#### ② 環境構成

- ・ 指導計画の中での自然環境(散歩)の設定に関しては、天候や時期、場所に左右されることがあり、実施計画が困難である。
- ・ 高齢者通所施設や地域施設への訪問に関しては、園児の体調や健康状態が影響するため、状況に応じて実施の有無や対応の判断に困難が生じる。
- ・ 保幼小の教師間の連携の実施時期や方法の具体的な対策に課題がある。園長、主任だけでなく教職員一人一人の意識の向上と体制づくりを進める必要がある。

## 鹿嶋市立平井認定こども園の実践

### 研究主題

### 様々な出合いや体験を通して人や物と豊かに関わる力を育む指導・援助の在り方

－身近な人や地域の方との交流活動を活かして－

#### 1 主題設定の理由

本園は茨城県南東部に位置している、創立2年目の幼保連携型認定こども園である。園児数は約150名で、0歳児～5歳児が在園している。文化的な施設や海が近くにあり、自然も豊かな場所にある。

少子化や核家族化が進み、本園でもテレビやゲームなどの一人遊びが増え、人と関わる機会が減ったことで、クラスの中でも友達との接し方が分からない子どもが増えてきている。また、幅広い年齢の子どもが在籍しているこども園ではあるものの、心身の発達段階や生活リズムが違うことや、保育室自体が離れていることで上手く関わりがもてていない現状にある。

そこで、園児が豊かに人と関わるためにはどんな指導や援助をし、どのような体験をしていくことが必要になってくるのか、身近な人や地域との関わりを記録に取って考察し、研究をしていきたいと考え、今回の主題を設定した。

#### 2 研究のねらい

様々な人や環境と関わる体験活動の中で、園児一人一人が十分に自己を発揮し、友達や周囲の人とのつながりを深めることにより、人や物と豊かに関わる力を育む指導・援助の在り方を探る。

#### 3 研究の内容

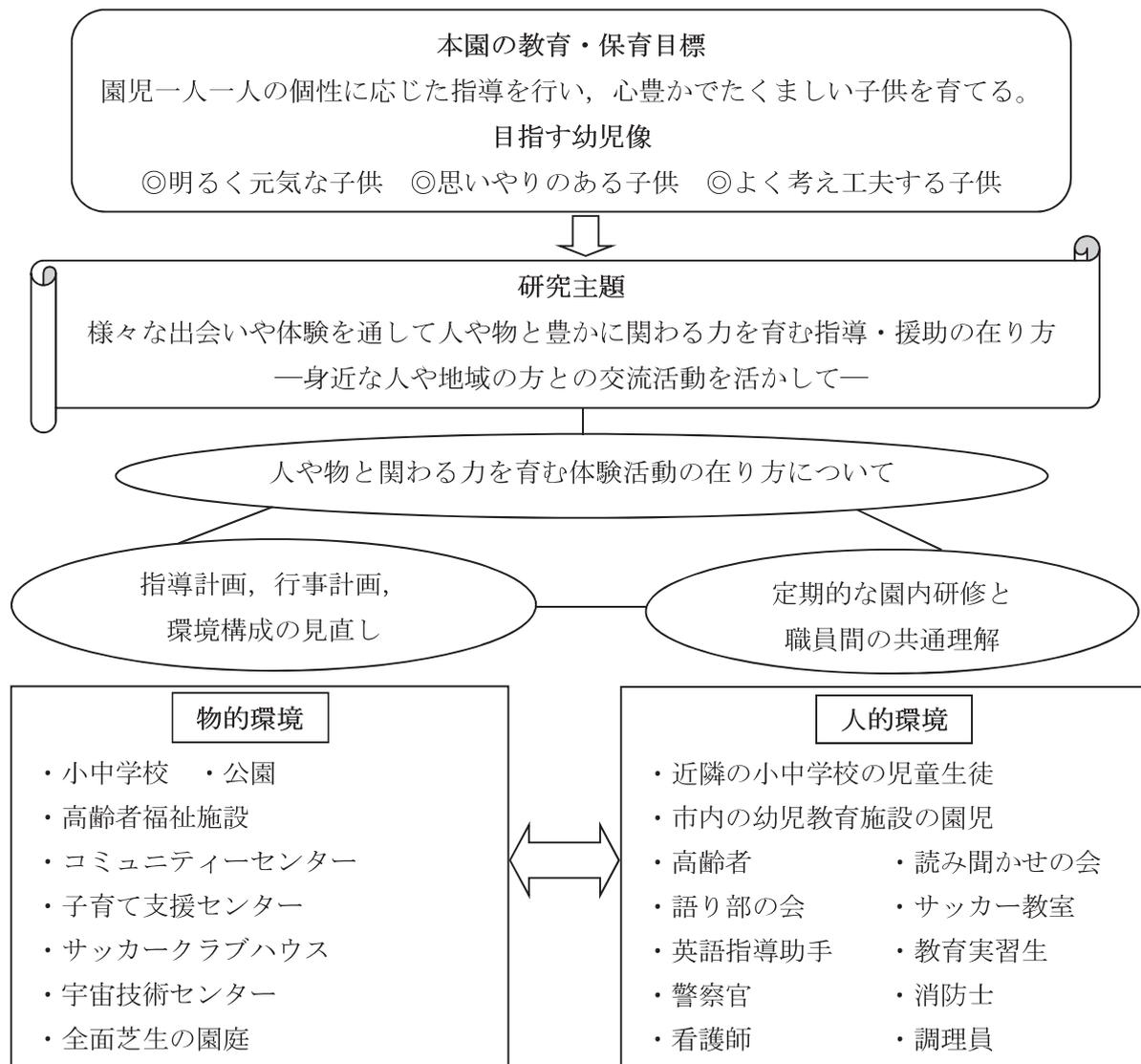
##### (1) 研究の方法

- ① 園内での異年齢児交流、小・中学校との交流、地域施設との交流を図る。
- ② 様々な体験活動を展開する中で、園児の姿や変化を記録にとって考察し、人や物と関わる力を育むための保育教諭の関わり方や環境構成の工夫の在り方を探っていく。(一人一人の実態や活動のねらいに対する援助、よりよい環境の構築等)

##### (2) 研究の計画

- ・研究主題や研究の内容、本園の保育の現状と課題について全職員で共通理解し、研究体制を整える。
- ・定期的に園内研修を行い、研究の推進を図る。
- ・指導計画、行事計画、環境構成の見直しと改善を行う。
- ・人や物と関わる力を育む体験活動の在り方について研究を深める。(園内の異年齢児交流の在り方についての見直しや工夫改善、市内小学校との連携や交流活動の計画と実施、地域との交流活動の内容の見直しと更なる充実)
- ・人や物と関わる力を育むための保育教諭の関わり方や、環境構成の工夫について職員間で意見交換を交え、研究を深める。
- ・1年次の実践を振り返り、成果と次年度に向けての課題を明らかにする。

(3) 研究の全体構想



4 1年次の成果

- ・異年齢児と一緒に遊んだり，いろいろな行事を共にしたりすることで，年下の子を思いやる気持ちや年上の子に憧れ自分もやってみたいという思いが育ってきた。
- ・小・中学生や地域の方々と触れ合ったり，関わったりしていくことで，身近な人達に感謝の気持ちをもって接することができるようになってきた。
- ・定期的に園内研修を行い，保育の内容や環境構成・援助の仕方について振り返り，意見を出し合うことで職員間の共通理解にもつながった。

5 今後の課題

- ・職員の勤務形態が複雑なため，全職員で研修時間の確保や研修内容に工夫が必要である。
- ・園の周囲は道路整備中であることが多く，こまめに下見に行く必要があり，近隣の場所へなかなか園外保育に行けない現状にある。
- ・1号認定児，2号認定児，3号認定児それぞれ登降園時間も異なり，生活リズムも違うため，年齢によっては園児同士の交流，更には担当職員同士の連携も難しい状況である。

## 3 資 料

- ・平成28年度幼保小接続のための研修会資料

※平成28年度までは、幼稚園・保育所・小学校について、「幼保小」と表記しています。平成29年度からは、文部科学省の表記に併せて「保幼小」と表記します。

# 平成28年度 幼保小接続のための研修会

---

茨城県教育庁学校教育部義務教育課

# 現状の理解

---

幼児教育充実事業

## 事業の背景①

- 生産年齢人口の減少
- グローバル化の進展や技術革新
- 社会構造や雇用環境の急激な変化



将来の子供たちには

- 社会の変化に柔軟に対応する力
- 他者と協働しながら価値の創造に挑む力
- 社会を切り開いていく力

こうした力を身に付けることが求められている。

## 事業の背景②

- 子ども子育て支援新制度のスタート  
国としても、幼児期の質の高い教育や保育の提供を目指して、取組が始められた。

【茨城県】

- 就学前教育の向上
- 幼児教育から小学校への円滑な接続

幼保小が一体となり、共に子供たちの自主性・自立性を就学前から育むという目標を全員で共有し、その推進に向けてともに歩んでいきたい。

質の高い義務教育を受けるために

子供たちに、より質の高い義務教育を受けさせたい



幼保小の円滑な接続  
質の高い幼児教育が必要

# いばらき教育プランと 幼児教育充実事業

幼児教育充実事業

# いばらき教育プラン ①

一人一人が輝く教育立県を目指して  
～子どもたちの自主性・自立性を育もう～

- 4つの基本方針
- 6つの視点



## いばらき教育プラン②

**基本テーマ**

一人一人が輝く 教育立県を目指して  
～子どもたちの自主性・自立性を育もう～

**基本目標**

学校・家庭・地域がそれぞれの役割を十分に果たしながら、社会全体で子どもたちを守り育てる体制を構築します。

特に生涯にわたる人格形成の基礎を培う乳幼児期において、家庭のしつけの徹底などにより、自主性・自立性に富み、優しさを思いやりを持って、強くたくましく生きられる子どもを育て、その上になって「豊かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた子どもたちの育成を図ります。

**4つの基本方針と特に力を 入れて取り組む6つの視点**

**基本方針 1**

**社会全体による子どもたちの自主性・自立性の育成**

家庭や地域の育育力の低下が懸念される中、教育の主体となる学校、家庭、地域などが、それぞれの教育力を高め、連携して子どもたちを守り育てることにより、社会全体で子どもたちの自主性・自立性、活動意欲などを育み、人間として生きていく上での基礎力を培います。



**基本方針 2**

**確かな学力の習得と活用する力の育成**

変化の激しい時代をたくましく生きていくため、変化も自らの学校を問わず、環境を正しく理解し、グローバル社会で活躍できる力や最先端の科学技術を知り得る力など、これからの日本や世界をリードする人材となるために必要な基礎的・基本的な知識・技能や、自ら課題を発見し解決できる能力など、確かな学力の習得と活用する力の育成を図ります。



**基本方針 3**

**生涯にわたる学習と文化芸術、スポーツ活動の推進**

正課にむけ、スポーツに数しめる環境を整備するとともに、文化芸術活動に基づき、総合的な文化芸術の推進を図るとともに、豊かな生活文化の発展を図ります。また、体力づくりや健康、がん予防などの健康増進の推進により、生涯にわたる健康と活躍できる健やかな体の形成を図るとともに、特に平成31年の第74回国民体育大会(いさぎよい徳島県ゆめ国体)や、その翌年の東京オリンピックパラリンピックを契機とした競技力の向上やスポーツの振興を図ります。



**基本方針 4**

**誰もが安心して学べる教育環境づくり**

少子化の進展など時代の変化に対応した魅力ある学校づくりの推進を図るとともに、信頼・尊敬される教員の育成や、ICT教育の推進、児童虐待への対応、児童生徒等の安全の確保を図ります。また、自立社会構築に向けた特別支援教育の推進、家庭の経済状況などに関わらずすべての子どもが等しく学習することのできる機会、人権教育の推進などを行います。さらに、私立学校における教育費負担の軽減向上や保護者の負担軽減のためにも学習成果の向上に努め、授業の質に基づく特色ある教育の推進、私学教育の振興を図ります。



**特に力をを入れて取り組む 6つの視点**

**視点 1** 子どもたちの自主性・自立性の育成

**視点 2** 茨城で育ちグローバルに活躍できる人材の育成

**視点 3** 時代の変化に対応した魅力ある学校づくりの推進

**視点 4** 信頼・尊敬される教員の育成

**視点 5** 茨城国体、東京オリンピック・パラリンピック関連施策の推進

**視点 6** 教育による地方創生の実現

# いばらき教育プラン③

**基本方針 1**

社会全体による子どもたちの自主性・自立性の育成

- 社会を生き抜く力の育成
  - 豊かな人間性を育むための体験活動の推進
  - 子どもの読書活動の推進
  - 災害等の危機管理能力の育成
- 生活習慣・しつけなど家庭の教育力の向上
  - 学校・家庭・地域・企業との連携による家庭教育への支援
- 就学前教育の充実**
  - 幼児教育・保育の充実と小学校教育の連携及び接続
  - 特別な教育的支援が必要な子どもへの早期対応
- 豊かな心をもつ子どもたちの個性教育の推進
  - 芸術教育の充実
  - ボランティア活動の推進
- 命を大切に教育、世代をつなぐ教育の推進
  - 命を大切に教育の推進
  - 家庭や世代をつなぐ教育の推進
- 開かれた学校づくりの推進
  - 地域の人材の積極的な活用と体制づくりの促進
  - 地域に向けた情報の発信
- 青少年の健全育成、情報モラル・情報リテラシーの向上
  - マナーアップ運動の推進
  - 県全体で取り組むインターネット機器利用の徹底のルールづくりの推進
- 地域コミュニティの再生
  - 学校を核とした地域活性化
- いばらき教育の日・教育月間の推進
  - 県民全体の運動の活性化

**主な数値目標**

- 家庭でほとんど毎日(週に4日以上)お手伝いをしている割合(小1)
 

H26	55.9%	H32	60.0%
-----	-------	-----	-------
- 幼児期の教育と小学校教育の連携・接続を行う割合
 

H27	73.0%	H32	80.0%
-----	-------	-----	-------
- 生活の自己責任化
 

H26	54.4%	H32	75.0%
-----	-------	-----	-------

## 3 就学前教育の充実

■ 幼児教育・保育の充実と小学校教育の連携及び接続

■ 特別な教育的支援が必要な子どもへの早期対応

**【数値目標】**  
 幼児教育と小学校教育の連携・接続を行う割合  
 H27 73.0% → H32 80.0%  
**【ステップ2以上】**

# 茨城県の接続の状況

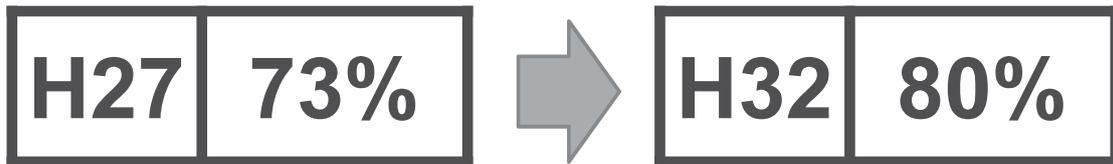
(平成26年度調査)

接続状況	全国	本県	市町村数
【ステップ0】 幼児教育小学校教育との連携の予定・計画なし	9.6%	20.4%	9
【ステップ1】 連携・接続に着手の計画を検討中	7.8%	6.8%	3
【ステップ2】 授業等での交流はあるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない	59.6%	61.4%	27
【ステップ3】 授業等での交流が充実、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている	17%	11.4%	5
【ステップ4】 接続を見通して編成・実施された教育課程について、改善の検討が行われている	4.5%	0%	0

# 茨城県の接続の数値目標

幼児期の教育と小学校教育の連携・接続を行う割合  
 (茨城教育プラン [茨城県教育振興計画] より)

## 数値目標



※H26調査の接続状況のステップ2以上の割合

### 就学前教育・家庭教育推進事業（新規）

自主性・自立性に富み、社会を生き抜く力を備えた子どもを育てるため、生涯にわたる人格形成を培う幼児期における、就学前教育及び家庭教育の推進施策に総合的に取り組みます。

#### ◆ 家庭教育充実支援事業

「親の学び」や「家庭のルールづくり」などの家庭教育の充実  
 ・家庭教育ポータルサイトの開設  
 (家庭教育コラム、講座・イベント情報)  
 ・いばらきっ子が家のおやくそく8か条

#### ◆ 訪問型家庭教育支援事業

家庭教育を主体的に行うことが困難な家庭に対する訪問型支援(アウトリーチ)の実施(市町村モデル事業)

#### ◆ 就学前教育・家庭教育推進事業

就学前教育・家庭教育のあり方の検討と総合的な施策の推進  
 ・就学前教育・家庭教育推進協議会の設置  
 ・実態調査の実施及び推進ビジョンの策定



#### ◆ 幼児教育充実事業

就学前教育の質の向上及び幼保の連携、交流の促進と小学校教育との円滑な接続  
 <幼児教育の充実>  
 幼稚園・保育所・認定こども園の保育士、教員等を対象とした研修及び相互交流  
 ・指導方針説明会・幼児教育研修会の開催  
 ・指導資料の作成・配付  
 <幼児期教育の接続の円滑化>  
 ・幼保小連携・接続に関する課題及び改善手法の検討  
 ・幼児教育の接続の円滑化のための研修会の開催

## 幼児教育充実事業（新規）

教育庁学校教育部義務教育課  
指導 G（5225）

就学前教育の質の向上を図るとともに、幼児期で培われた育ちや学びの、小学校生活や学習への円滑な連携・接続を図ります。

### 【事業概要】

#### 1 幼児教育指導方針説明会

対象 県内幼稚園長、保育所長等

内容 指導方針説明、幼児教育関連事業説明

#### 2 就学前教育推進小委員会

委員 大学教授等幼児教育関係者（11名 年4回開催）

内容 幼保小連携・接続に関する課題及び改善手法の検討

#### 3 幼児教育指導員連絡会議

指導員の共通理解の促進及び指導内容の検討

#### 4 幼児教育接続推進のための研修会

○市町村主催の幼稚園長・保育所長・小学校長等を対象とした教育課程編成等に係る合同研修会（44市町村）

○幼児教育施設等における研修会への指導員の派遣（希望に応じ52回実施）

#### 5 幼児教育研修会

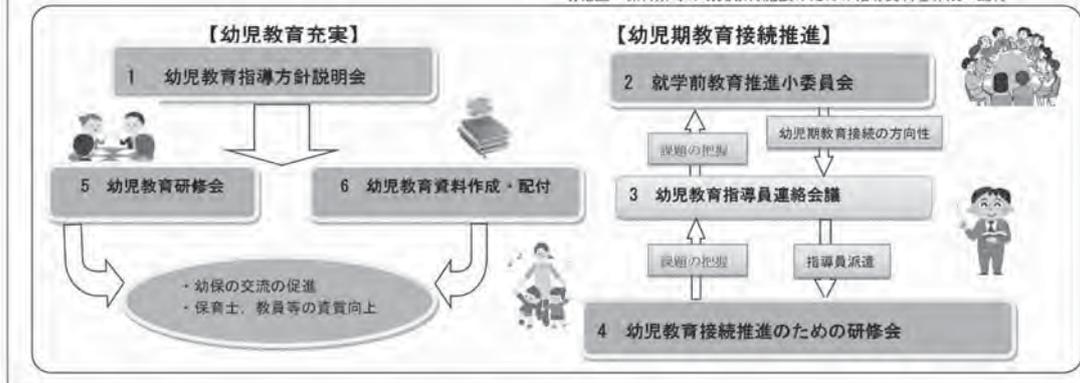
教育・保育に必要な専門的な知識・技能についての研修の実施

対象 幼児教育施設教職員

内容 幼児教育に関する講演、研究協議

#### 6 幼児教育指導資料作成

幼稚園・保育所等の幼児教育施設のための指導資料を作成・配付



## 幼児教育充実事業

就学前教育の質の向上及び幼保の連携、  
交流の促進と小学校教育との円滑な接続

### 【幼児教育の充実】

- 幼稚園・保育所・認定こども園の教員，保育士等を対象とした研修及び相互交流

### 【幼児期教育の接続の円滑化】

- 幼保小連携・接続に関する課題及び改善手法の検討
- 幼児教育接続の円滑化のための研修会の開催

## 幼児教育接続推進のための研修会

- 市町村における幼稚園長・保育所長・小学校長等を対象とした教育課程編成等に係る合同研修会（44市町村）
- 幼児教育施設等における研修会への指導員の派遣（希望に応じ52回実施）

# 接続に向けての 相互理解

---

幼児教育充実事業

## 幼稚園（学校教育法 第22条）

### 【目的】

義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする

## 保育所（児童福祉法 第39条）

### 【目的】

保育を必要とする乳児・幼児を日々保護者の下から通わせて保育を行うことを目的とする。

## 認定こども園

(就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律 第2条第7項)

### 【目的】

義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての満三歳以上の子どもに対する教育並びに保育を必要とする子どもに対する保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行うことを目的とする。

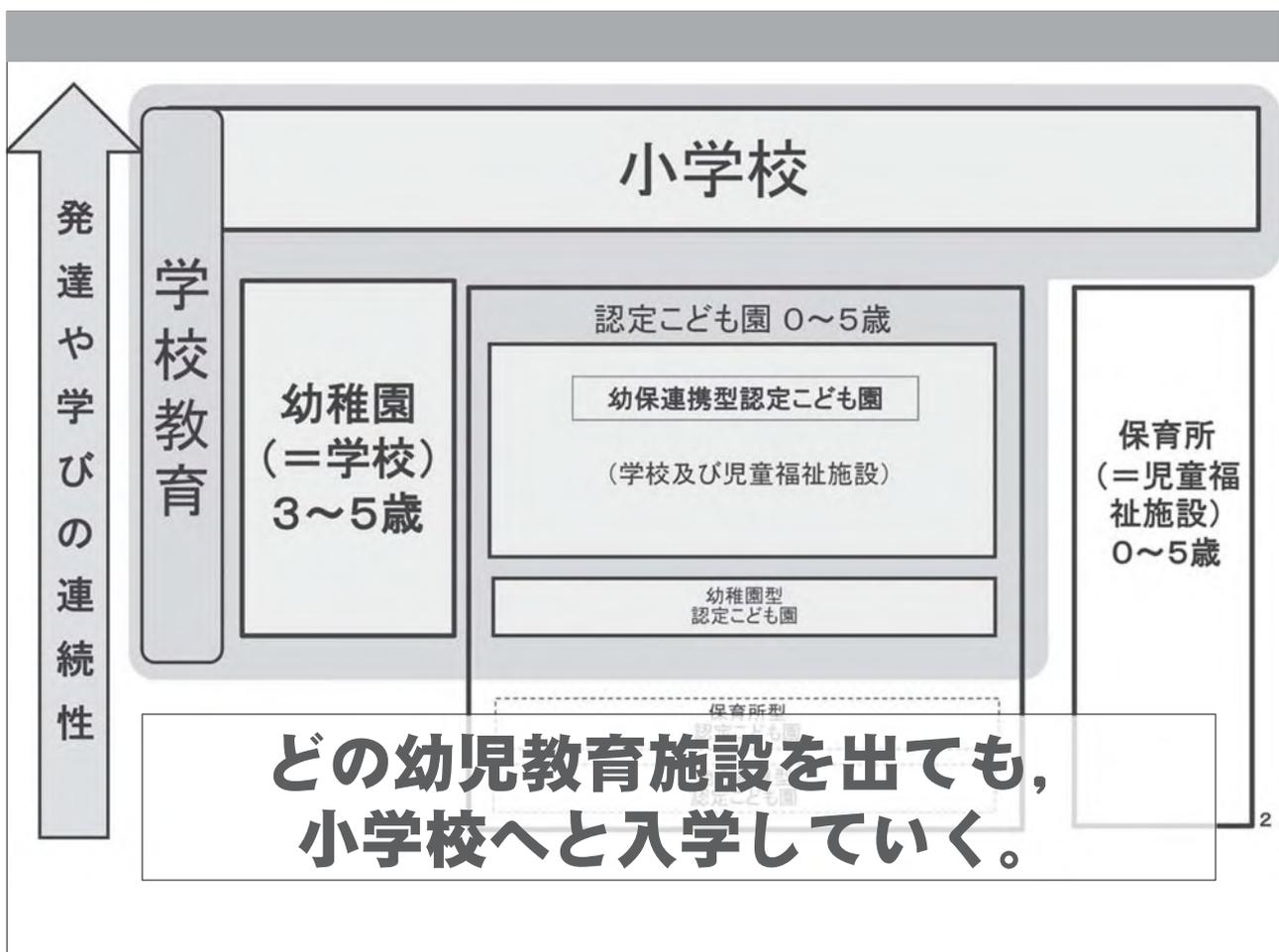
## 小学校 (学校教育法第29, 30条)

### 【目的】

心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すこと

### 【目標】

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに



## 幼児期の教育の特質①

- 環境を通して行う教育
- 遊びを通しての指導を中心
  - 「遊び」は、幼児にとっての貴重な「学習」



教育要領，保育指針，教育・保育要領に示すねらいを達成していく。

## 幼児期の教育の特質②

遊びを通した総合的な指導 一ものを転がして遊ぶことを楽しむ一

\* 様々な斜度、素材で試す

\* 転がり方(摩擦・回転など)に関する発見

\* 友達と  
かかわる

\* 順番にする

\* 意見の対  
立と葛藤

\* 片付けを  
する



\* 互いに観察  
する

\* アイデア  
を出し合う

\* 友だちに説  
明する

\* 友だちに  
話す

教師は、子どもの知的好奇心、興味や関心を喚起し、子どもと「もの」や「人」、「状況」とのかかわりがより豊かになるように環境を構成し、援助していく。

4

## 5つの領域を通して

- 健康 (心身の健康)
- 人間関係 (人とのかかわり)
- 環境 (身近な環境とのかかわり)
- 言葉 (言葉の獲得)
- 表現 (感性と表現)

それぞれが独立しているわけではない。

## 幼児期の教育と小学校教育 ②

### 学校教育

- 国語，算数などの教科学習
- 時間で区切られた授業
- 教室での座学が中心



接続のための手立てが必要では？

### 幼児教育

- 遊びの中での学び
- 時間の区切りが緩やかな生活
- 5領域の総合的な指導

栃木県教育委員会「生活科で取り入れる『スタートカリキュラム』」

## 小学校とは「生活科」を中核として接続

【生活科のねらい】（平成4年度より）

児童の身近な生活圏を学習の対象や場とし、児童が具体的な活動や体験を通して「自立への基礎を養う」こと。

生活科を核として、教科、道徳、特別活動などの内容を合科的・関連的に扱い、大きな単元を構成する。

# 幼児教育と小学校教育の 接続に向けて

幼児教育充実事業

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

【小学校が望むこと】（受け入れる側）  
どこまで育ててほしいか。  
（何をできるようにさせてほしいか。）

「育ってほしい姿」を共有できれば、円滑な接続が見えてくる。

【幼児教育が望むこと】（送り出す側）  
どこまで育てたいか。  
（何をできるようにさせるか。）

## 接続に向けて大切なこと

- 幼児期と児童期において、どのような活動が行われているのかを知る。
- 「尊重すべき違い」を知ったうえで、接続に向けて何ができるか、何をするかを考える。

### 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の再整理イメージ（たたき台）

平成28年3月30日  
教育課程部会幼児教育部会  
資料6

#### 大項目の再整理

※ 平成22年以降の社会情勢や子供を取り巻く変化、中央教育審議会幼児教育部会等の御議論や「教育課程特別部会 論点整理」等を踏まえるとともに、2030年の社会と子供たちの未来を見据え、再整理したもの。個別の項目の再整理については、次ページ以降に示す。



#### 幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(※)

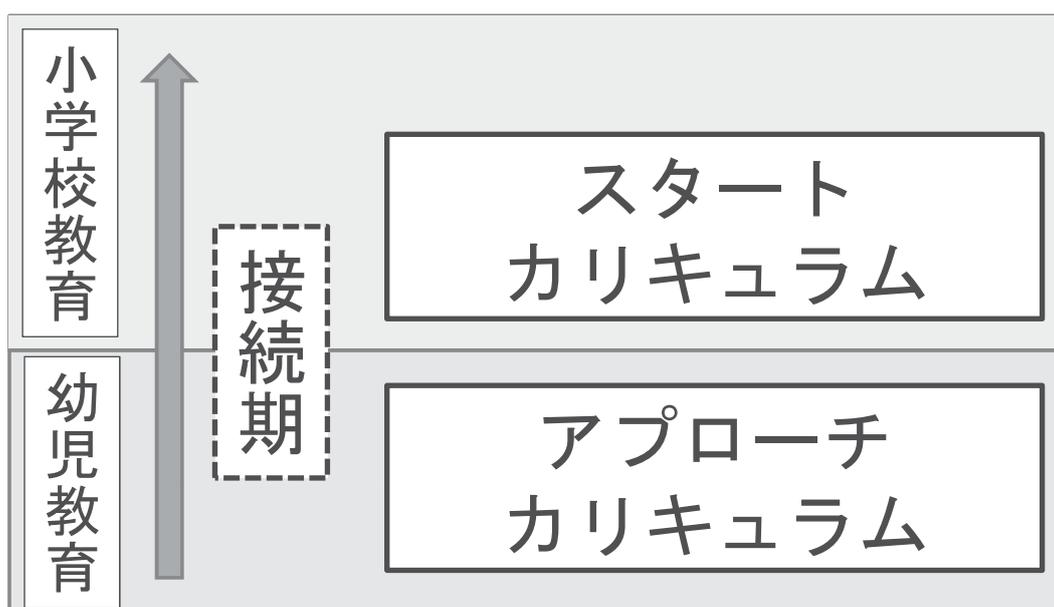
健康な心と体	自立心	協同性	道徳性の芽生え	規範意識の芽生え	いろいろな人とのかかわり
思考力の芽生え	自然とのかかわり	生命尊重・公共心等	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

※「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」(平成22年11月11日)に基づく整理。

# 接続期のプログラム

幼児教育充実事業

## 接続期のプログラム



スタートカリキュラムの編成の仕方・進め方が分かる

# スタートカリキュラム スタートブック

必携!



## スタートカリキュラム スタートブック。

※小学校等には配付済み。ダウンロード可。  
(国立教育政策研究所より)

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成27年1月

### 園での生活 【劇ごっこ】



「これから劇を始めますよ」「あるところに…」  
「ここで踊ることにしようよ」「いいね、そうしよう」  
ストーリーを考えたり、想像したことを表現したりして、みんなでつくった劇を見てもらいます。



### 園での生活 【遊具で遊ぶ】



園での生活  
【遊具で遊ぶ】

「こんなに登れるようになったよ」「ごこを持つと登りやすいよ」  
「もっと上まで登りたいな」  
体を伸び伸ばしと動かす心地よさの中で多様な動きを経験したり、挑戦しようとしていきます。



## 入学前 【小学校へ】



入学前  
【小学校へ】

「思いつき走り気持ちはいい」「小学校の運動場、広いね」  
小学校の運動場で遊んだり、小学校の生活をのぞいてみたりすることで、  
入学への期待が高まります。



## 入学後 【1年生を迎える会】



入学後  
【1年生を迎える会】

「楽しかったね」「ちょっとドキドキした」  
「お兄さんやお姉さん、優しく」  
みんなに迎えられ、嬉しそうに1年生です。



## アプローチ から スタート へ

## スタートカリキュラム 【みなさんよろしくね!】



誰から先に名前を  
言うね。

安心

スタートカリキュラム  
【みなさん、よろしくね!】

出合いの楽しさが  
広がります。



私もウサギが  
好き!一緒だね。

私の好きな動物は  
ウサギだよ。

## スタートカリキュラム 【春を探そう!】



スタートカリキュラム  
【春を探そう!】

安心

「タンポポを見つけたよ、Tシャツに花の絵をいっぱい描きたいな」  
幼児期に楽しんだ活動を行うことで、子供は安心して取り組むことができます。



## スタートカリキュラム (児童期)

## スタートカリキュラム 【学校を探検しよう】



「分からないことがあったので、もう1回聞きに来ました」  
「どんなことかな」  
学校を探検を通して、いろいろな先生とのつながりが生まれます。



## スタートカリキュラム 【探検したことを発表しよう】



「探検で見つけたことを発表します」  
「よく見付けたね」「知らなかったな」  
みんなの前に立ち、自分の発見を伝えます。



## スタートカリキュラム（児童期）

「茨城の幼児教育 第42号」作成協力者一覧  
(平成28年度幼児教育指導資料作成委員)

※ 敬称略

高野 恵美子	茨城大学教育学部附属幼稚園教諭
大和田 恵美	認定こども園あたご水戸英宏愛宕幼稚園教諭
關谷 真由美	水戸市立石川小学校教諭
小林 淳子	日立市立おおせ保育園主任保育士
河口 恵子	日立市立会瀬幼稚園主任教諭
藤枝 隆宏	鹿嶋市立平井認定こども園保育教諭
山上 美幸	鹿嶋市立三笠小学校教諭
細田 澄江	深芝保育園副園長
田中 奈緒子	稲敷市立認定こども園えどさき副園長
中島 由美子	筑西市立明野幼稚園教務主任
大久保 陽子	常総市立豊田幼稚園主任教諭
菊地 弘子	認定こども園境いずみ保育園園長
斎須 久依	水戸教育事務所指導主事
鈴木 京子	県北教育事務所指導主事
長峰 正道	鹿行教育事務所指導主事
村松 静	県南教育事務所指導主事
宇都木 健生	県西教育事務所指導主事

なお、教育庁学校教育部義務教育課においては、主として次の者が編集に当たった。

稲野邊 親	教育庁学校教育部義務教育課指導担当課長補佐
菊池 哲也	教育庁学校教育部義務教育課指導担当主任指導主事
岡田 奈奈	教育庁学校教育部義務教育課指導担当指導主事
斎藤 崇	教育庁学校教育部義務教育課指導担当指導主事
滝 恵美子	教育庁学校教育部義務教育課主査
戸塚 俊宏	教育庁学校教育部義務教育課主査